

新入生諸君へ

岡田 吉 義明 学工

歯学部 歯学部長 岡本 夢 莫

新入生諸君、入学おめでとうございます。念願の大学受験に見事合格され、今その達成感とこれからの大学生活への大きな期待に胸一杯で、喜びに満ちあふれていることと思います。私も諸君のご父兄のお喜びと合わせて、心からお祝い申し上げます。

諸君は、本日歯学部に入學を許可されました。この時点で諸君は既に立派な歯科医の卵であることを、まず自覚して下さい。今日を出発点として、これから一人前の歯科医になるには、最初2年間の進學課程、次いで4年間の専門課程があります。ここまではよくご存知と思いますが、通常それからさらに2年間の研修医の課程を修了して、やっと一般歯科医として認められるのです。卵がかえってひよ子になるのに8年かかります。そして一人前の歯科医、つまり、患者から信頼され安心して治療を依頼されるようになるまでには、さらに何年も年月がかかります。また、これからの歯科医過剰時代に安定した位置を占めるためには、あるいは、矯正科、小児歯科、歯周科などの認定医となるためには、ずっと生涯にわたって学習を続けねばなりません。

諸君が今ここまで読んで、「よし、ファイトが出てきた。今日から頑張るぞ」と思った人は歯科医になる資格のある人です。一方、「うわっ大変だ、かなわんな」と感じた人は、歯科医としての適性について、もう一度自分を考えてみて、発想を転換する必要があるでしょう。

10年前、20年前の歯科医療は、むし菌や歯槽膿漏などの歯科疾患の患者をいち早く苦痛

から解放するだけで良かったのです。それで歯科医として成り立っていました。しかし、21世紀に至るこれからは、いかに病気をつくらないか、いかに健康を維持させるか、に医療は移っていくものと考えられます。つまり、病気そのものより、より一層人間を対象として医療は行われることとなります。そうになると、患者は医療技術だけでなく、その処置にあたる歯科医そのもの、つまり、高い教養と人格の備わった人間味あふれる先生を求めるようになるでしょう。歯科医にとって、今や生涯学習は常識となりました。

人間形成には、学生時代、とりわけ入学してから2年間の歯進課程が重要な時期となります。人の頭脳は3回急成長するそうです。それは10代の記憶力、20代の発想力、そして30代以降の判断力です。諸君は大学入試で記憶力がテストされ、その優秀性が確認されました。今度は豊かな発想力が要求されます。発想力、つまり、感性が一生のうちで最も高まるのは20歳のときで、その寿命は10年しかないといわれます。偉大な発明、優れた芸術品は、すべてこの年代の人によることからもうなずけるでしょう。発想力を豊かにする方法は簡単です。明確な目標、できるだけ自分の好きな、したいことを持って、ひたすら、それに熱中することです。

歯進課程は、正に挑戦の時代です。これからの2年間は、人生のなかで唯一自分で自由に料理することのできる余暇を内包している時期ではないでしょうか。どうか心と体を健康に保って、思う存分青春して下さい。